

2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項
なし
2016 年度外部評価委員会指摘事項
【特筆すべき事項】 全学でGPA制度を導入したことは高く評価でき、特筆に値する。一般論としてGPA制度導入の目的は「学生の学ぶ意欲の助長」、「学生の目的意識的・計画的な学びの助長」、「学生の成績評価の厳格化」など多様にありうる。そこでGPA制度の具体的な活用の在り方が問われることになる。法学部の点検・評価シートの「目標達成の指標」欄に、「全学でGPA制度が導入され、各種の選考等で活用されている」との記述がある。そうだとすると、たとえばGPAのあるポイントを基準点に設定して、進級・卒業の条件、教育実習履修の許可条件、留学の許可条件、奨学金支給ないし継続支給の認定条件など「学生個人の権利ないし利害にかかわる事項の許可・承認の条件」として活用していることがすでにあるのかもしれない。そうした場合、その理論的根拠、正当性、教育指導上の適否等が問われることになるので（説明責任）、十分な検討をお願いしておきたい。 【改善提言】 シラバスに関しての問題の一つは、学生がシラバスを読み、理解し、活用しているかどうかである。大学の点検・評価シートの「改善すべき事項」欄に、「本学はWebシラバスを導入しポータルサイトで公開しているが、学生のアクセスが十分でない」との記述がみられる。経営学部のシートには、「履修前にシラバスを読んでもくる学生はほとんどいない」と記述されている。国際関係学部は「シラバスを読んでもくる学生 目標達成の指標：70%」を掲げている。このような取り組みが全学に広がることを期待したい。
前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記）
なし

Ⅰ 評価項目・担当部局

対象部局	外国語学部
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-3	教育方法 【自己評価 B】
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
	学生の主体的参加を促す授業方法
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
	既修得単位認定の適切性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ 点検・評価 対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	授業は講義・演習等で行われる。全授業科目でシラバスを作成し、授業内容に適した授業形態を明示している(A4-3-1)。 英語・フランス語・ドイツ語・中国語など外国語の訓練科目は、受講者数を 25～30 名程度に抑えて実施している。 1～3 年次の履修登録の上限は設定されてきたが、4 年次では上限設定がなかったため、単位制度の趣旨に照らして、各学科で履修登録の見直しを行い、全学年とも中国語学科は 49 単位、英語・日本語両学科は 48 単位と定めた。2013 年度に新しい上限設定の学則改正を行い、2014 年度入学者から適用している(A4-3-2 第 23 条の 12 第 2 項、B4-3-55 d2-表 20)。 シラバスに授業の到達目標・授業外の学習・参考文献等を記載し、それに沿って学習指導を行うことになっているが、学習指導や授業方法は授業担当教員に任されている。 学生の主体的参加を促す授業や自主的な学習を促す授業の実施については、少人数クラスやゼミ、教養基礎演習等の授業を通じて、自分の力あるいはグループで情報を収集・分析し、結論を導き出し、発表する能力を養成することを、学部全体の共通理
-------	--

	解の下に推し進めている。
4-3-1	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用について【×】 具体的事例： (2) 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実について【○】 具体的事例：履修登録の上限を設定することで、早い段階での進級、留年に関する判定が可能となり、当該学生との面談、父兄、保護者への連絡等を行うことで、綿密な学習指導に取り組んでいる。 (3) 学生の主体的参加を促す授業方法について【○】 具体的事例：2015 年度より「多文化共生リーダー育成プログラム」を開始し、学部共通科目「多文化社会論 A/B」と「移民政策 A/B」においてアクティブ・ラーニングを実践する授業形態を取り入れている。
4-3-2	外国語学部では、学部内設置のシラバス委員会のもとで、シラバス作成にあたって教員間で精粗が生じないように、記入上の留意事項等を明示して周知を図った（A4-3-1、B4-3-19）。また、2014 年度用のシラバスより、各教員が完成稿の提出前に、シラバス委員会作成の「チェックシート」により最終チェックを行う制度を新たに導入するとともに、学部内にシラバス編集委員会を設置し、記載内容のチェック体制を整えた（B4-3-21）。2016 年度のアンケート結果によれば、「教員はシラバスを授業に反映させていたか」という設問に対して、学部平均で 65.7%の学生が肯定的な回答をしている（B4-3-24 を 2016 年度版に）。
4-3-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) シラバスの作成と内容の充実について【×】 具体的事例： (2) 授業内容・方法とシラバスとの整合性について【×】 具体的事例：
4-3-3	成績評価の方法と基準は、シラバスに評価方法・割合・評価基準を記載するようにしており、学生に周知を図っている（A4-3-1）。単位認定は、学則に則り、学部の履修の手引き『徑』等に記載し適切に行っている（A4-3-2 第 21 条、A4-3-5 p.19～p.27）。既修得単位の認定は学則に定め、適切に行っている（A4-3-2 第 19 条の 2～4）。
4-3-3	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）について【○】 具体的事例：GPA による各種奨学金選考及び卒業生学科総代の選考に導入され、客観的で公正、公平な評価基準として運用されている。 (2) 単位制度の趣旨に基づく単位認定について【×】 具体的事例： (3) 既修得単位認定について【×】 具体的事例：
4-3-4	大学全体の取り組みとして、「学生による授業評価アンケート」の結果は各授業担当教員にフィードバックし、教員からのコメントを回収している。また、アンケート集計結果は FD 報告書『学生による授業評価と大学教育（2016 年度）』としてまとめ、学内外に公表している（B4-3-24、B4-3-26）。外国語学部としては、これらのアンケート結果を具体的な授業改善に結びつける作業およびその有効性の検証は、まだ実施していない。 学部内に設置された FD 委員会のもとで、2010 年度より FD 研究集会を年 3 回の予定で定期的かつ継続的に実施している（B4-3-35）。
4-3-4	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施について【×】 具体的事例： (2) 教育方法の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

4-3-1	
4-3-2	・外国語学部がこれまで行って来たシラバスチェックのためのチェックシートがひな形となって 2017 年度より全学部において使用されることになり、有効性が確かめられた。
4-3-3	
4-3-4	

【改善すべき事項】

4-3-1	
4-3-2	・学生による授業評価アンケートにおいて、「シラバスの内容を理解しているか」への肯定的な回答が80%を超えていない。
4-3-3	GPAの運用、適用範囲について各学科で検討、確認を行い、学部教授会上程された後、履修の手引き等に記載され、学生への周知が図られる必要がある。
4-3-4	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標			評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～2018)	4-3-2 ・シラバスの記載内容が学生に周知徹底されている。	・学生による授業評価アンケートにおいて、「シラバスの内容を理解しているか」への肯定的な回答が80%を超えている。	→		B	B	
	4-3-3 ・公平性と客観性を担保した成績評価法としてGPAを導入する。	・全学でGPAが導入され、学部の各種の選考等で活用されている。	→		S	A	
16年度目標	4-3-3 ・GPAの導入について各学科で検討を行い、学部教授会上程される。	・学部教授会において制度の導入が審議される。			S		
17年度目標	(対象期間は2017年4月～2018年3月) 4-3-2 ・シラバスの記載内容が学生に周知徹底されている。 4-3-3 ・すでに導入されているGPAの運用、適用範囲について各学科で検討、確認を行い、学部教授会上程される。	・学生による授業評価アンケートにおいて、「シラバスの内容を理解しているか」への肯定的な回答が80%を超えている。 ・学部教授会において承認され、履修の手引き等に記載されることで周知が図られる。				B	

Ⅳ 評価専門委員会所見

4-3-1【現状】	アクティブ・ラーニングを取り入れた新たな授業の実施は高く評価できます。
4-3-3【現状】	学部独自のGPAの運用事例は他学部の模範となるものとして高く評価できます。厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）について、この取組が新たな取組か、継続的な取組かを明確にするために、わかる範囲で取組の実施時期などを記載してください。また、継続的な取り組みであれば、必要に応じてその成果を記述してください。

Ⅴ 所見への対応

4-3-3【現状】	2015年度卒業式における学科総代を選出する際に、まず中国語学科がGPA制に基づく基本的な基準を示し、その基準を微調整した上で、全学部に適応されるようになった経緯があります。温故知新奨学金給付生の選出もこの基準を用いて行われています。
-----------	---

Ⅵ 次年度への課題

シラバスの内容を学生に周知させる方法を検討し実施する。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-3-1	大東文化大学・大学院シラバス（CD-R） 大東文化大学ホームページ（Webシラバス） http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html 《既出》A4-2-16
A4-3-2	大東文化大学学則 《既出》A1-1
A4-3-5	外国語学部 経（履修の手引き） 《既出》A4-1-9
B4-3-19	2015年度シラバス（授業計画）の作成依頼について

B4-3-21	2016 年度シラバス執筆に伴うチェックシートについて（外国語学部シラバス委員会作成）
B4-3-24	学生による授業評価アンケートと大学教育 2015 年度 《既出》B3-12
B4-3-26	大学ホームページ 授業評価アンケート報告書 http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/jugyohyoka_houkokusho.html
B4-3-35	外国語学部 FD 研究集会のお知らせ、FD 集会だより
B4-3-55	大学データ集 《既出》B1-22
〔追加資料〕	
学生による授業評価アンケートと大学教育 2016 年度	